

## イーバッグ 大阪府立吹田支援学校でのE V A G (避難行動訓練)実施報告

国は地区防災計画制度を広く全国に展開させる観点から、市町村と連携してコミュニティレベルで防災活動に取り組んでいる地区（モデル地区）を選定し、地区防災計画の作成や防災訓練等の支援に取り組んでいます。そのモデル地区として吹田市の芳野町が選ばれ、平成 29 年 1 月 15 日（日）に府立吹田支援学校で、E V A G（イーバッグ：Evacuation Activity Game の略称）と呼ばれる訓練ゲームが実施されました。市職員としてこの訓練に参加し、体験させていただきましたので、その様子をご紹介します。

訓練ゲームには、参加者が地図を使って防災対策を検討する災害図上訓練の「DIG（ディグ）」や、次々やってくる避難者の状況や要望を考慮しながら、迅速かつ適切に対応する術を学ぶ避難所運営訓練の「HUG（ハグ）」、災害時避難行動に焦点を当て、参加者は様々な人（要配慮者）になりきり、この人ならどういう避難行動をするのかを検討する避難行動訓練の「E V A G」などがあります。



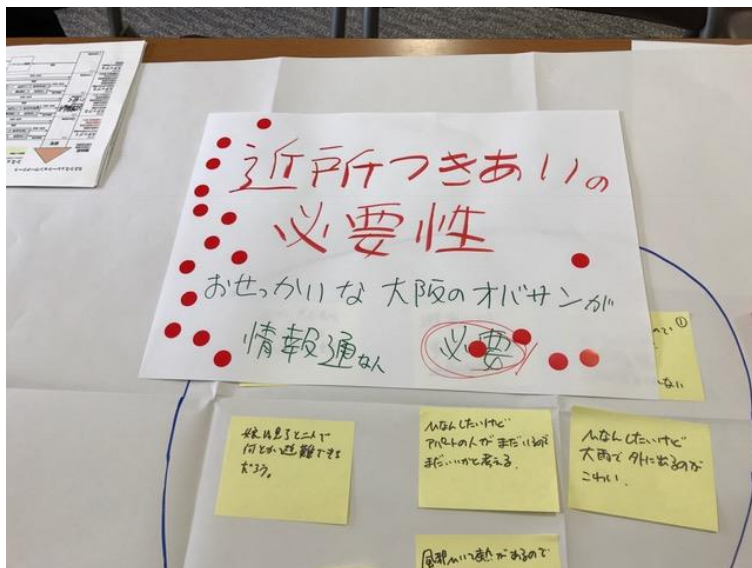
訓練内容の説明を受ける地域の皆さん

E V A Gは、災害発生時の状況を疑似体験することで、災害時避難行動の大変さを実感するとともに、そこに存在する様々な問題を明らかにし、今後の自分たちがどのような備え（意識・コミュニティ構築）をしておく必要があるかを考える、ロールプレイとシミュレーションによる参加型学習の手法を取り入れたワークショップ形式の訓練です。

芳野町という限定された地域で、避難勧告発令中のステップ1から河川決壊の前兆発生までのステップ4までのシミュレーションがあり、参加者は要配慮者の属性（戸建て住宅に住む高齢者、ひとり暮らしの障がい者、アパートの2階に住む母子家庭の小学生で腕を骨折している、など）になりきり、どのステップ

において避難を開始するのかを判断するという非常に興味深い訓練でした。

訓練後の振り返りでは、グループごとに課題の解決策を取りまとめ、他のグループから、その評価を受けました。



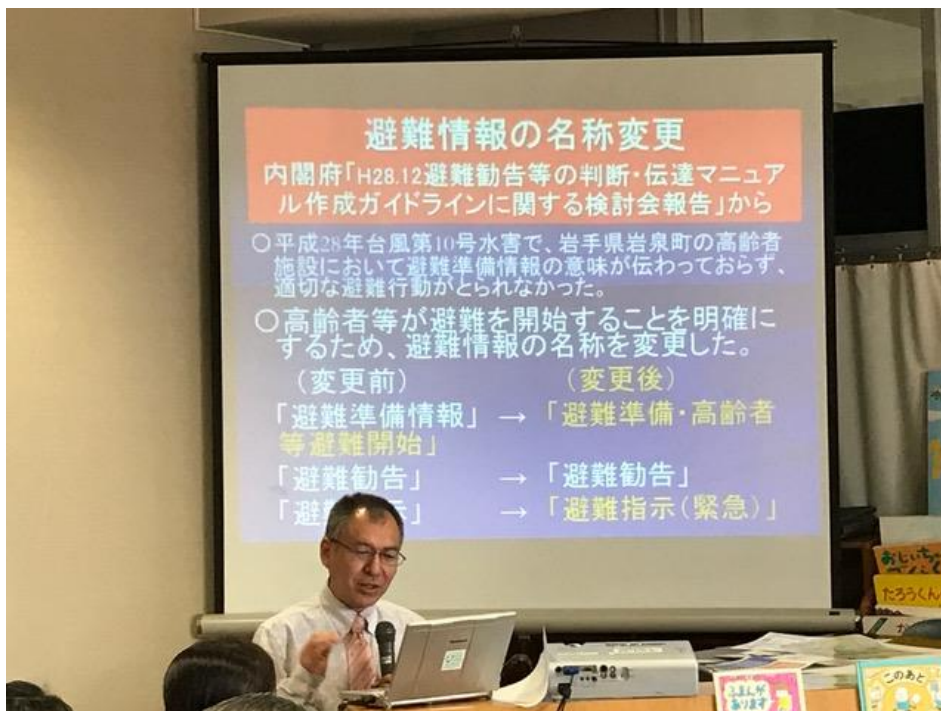
模造紙に各グループごとの課題解決策を作成

赤い丸は評価した人の人数です

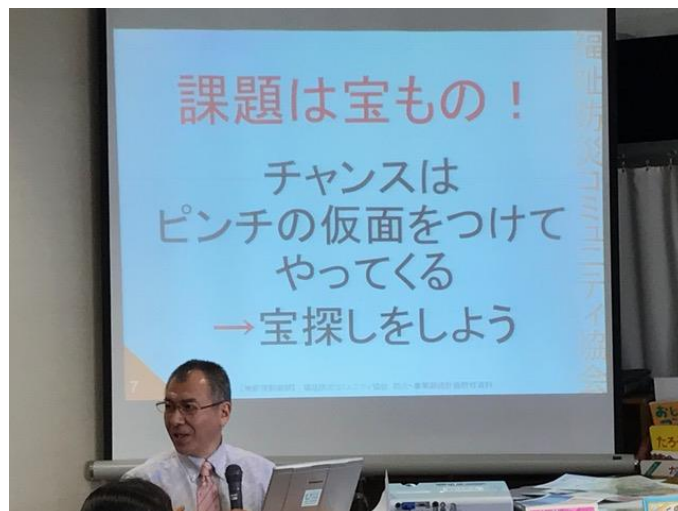


各グループのまとめでは、主に「自助の重要性」、「近所付き合いの必要性 おせっかいな大阪のおばさんが必要」、「日頃から近所付き合いを密にしておく」、「吹田支援学校と地域の助け合い 災害時に地域の自主防災組織と協力し合う」ことなどが挙げられました。

最後に内閣府「災害時要援護者の避難検討会」など多くの防災関連の委員を歴任しておられる鍵屋氏から、訓練のまとめと今後の取組についてのお話がありました。



まとめで熱心に説明される  
鍵屋氏



その内容は、昨年12月の避難情報の名称変更が始まり、各グループでのまとめでもあったとおり、コミュニティの魅力増進への取組の重要性、災害被害を最小限にとどめ早期に復旧復興を進めるために、吹田支援学校、福祉関係者、企業との連携が重要であり、「グッド・コミュニティを創ろう」と呼びかけをされました。最後に「訓練での課題は宝もの。チャンスはピンチの仮面をつけてやってくる」と、今後の取組への期待が述べられました。

参加者の感想では、細かな属性を持つ人になりきり参加することで、自助が最も重要であることがよく分かった、日頃から家族間で話し合い、いつの時点でどのように避難するか確認方法を決めておくことが必要、公助では避難所での簡易トイレや菓の確保が必要と感じたなどがありました。

今回の訓練を体験し、地域防災計画だけではなく、それぞれの地域のコミュニティの中で災害時にどう行動するかを考えることの重要性がよくわかり、地区防災計画の取組が市内全域に広がればと思います。